

## **Sun Server X2-4 (旧 Sun Fire X4470 M2)**

Windows オペレーティングシステムインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

はじめに .....	7
パート I <b>Windows</b> サーバーのインストール .....	11
<b>1 Oracle Hardware Installation Assistant</b> を利用した <b>OS</b> のインストール .....	13
Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要 .....	14
Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法 .....	14
Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース .....	15
<b>2</b> はじめに .....	17
サポートされている Windows Server オペレーティングシステム .....	17
Windows インストールの前提条件 .....	18
Windows Server インストールタスクの概要 .....	20
Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA .....	20
<b>3 Windows Server 2008</b> のインストール .....	23
始める前に .....	23
ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server のインストール .....	24
▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール .....	25
PXE ネットワークブートを使用した Windows Server のインストール .....	36
始める前に .....	36
<b>4 Windows Server 2008</b> のインストール後のタスク .....	39
始める前に .....	39
不可欠なデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール .....	39

▼ サーバー固有のデバイスドライバのインストール .....	40
追加ソフトウェアのインストール .....	41
▼ 追加ソフトウェアのインストール .....	42
TPM のサポートの構成 .....	42
Intel NIC チーミングの構成 .....	43
5 サーバーファームウェアとソフトウェアの入手 .....	45
ファームウェアとソフトウェアの更新 .....	45
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション .....	46
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ .....	46
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス .....	47
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード ....	47
物理メディアのリクエスト .....	48
更新のインストール .....	51
ファームウェアのインストール .....	51
ハードウェアドライバと OS ツールのインストール .....	52
パート II <b>Windows Server</b> システム管理者リファレンス .....	53
A   サポートされるインストール方法 .....	55
コンソール出力 .....	55
インストールブートメディア .....	57
インストール先 .....	60
B   サポートされているオペレーティングシステム .....	63
サポートされているオペレーティングシステム .....	63
C   新規インストール時の <b>BIOS</b> のデフォルト設定 .....	65
BIOS の出荷時デフォルト設定の確認 .....	65
始める前に .....	65

---

<b>D</b>	デバイスドライバの <b>Windows</b> 展開サービス用 <b>Windows Server 2008 WIM</b> イメージへの組み込み .....	69
	はじめに .....	70
	Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所 .....	70
	WIM イメージに組み込むデバイスドライバ .....	71
	前提条件とタスクの概要 .....	71
	ドライバを WIM イメージに組み込む手順 .....	74
	開始前のご注意 .....	74
	索引 .....	89



# はじめに

---

このインストールガイドでは、Windows オペレーティングシステムのインストールおよび構成の手順について説明します。これらの手順を実行すると、サーバーが構成および使用可能な状態になります。

---

注 – Sun Server X2-4 は以前は Sun Fire X4470 M2 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

---

このドキュメントは、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [7 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [8 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [8 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [8 ページの「フィードバック」](#)
- [8 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

## 最新のソフトウェアとファームウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

手順については、[第5章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Server X2-4	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 (Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース 1.3 以上用)	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>
Oracle Hardware Installation Assistant	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia</a>

## フィードバック

次でこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a> 聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>







## パート I

# Windows サーバーのインストール

このセクションでは、サーバーに Windows 2008 (SP2 または R2) オペレーティングシステムをインストールする方法を説明するトピックの一覧を示します。

説明	リンク:
初心者または経験を積んだユーザー: Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、Windows オペレーティングシステムの補助付きインストールを実行します。Oracle Hardware Installation Assistant は適切なシステムドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアを提供します。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <a href="#">第 1 章「Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール」</a>、Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール</li></ul>
経験を積んだユーザー。Windows オペレーティングシステムおよび必要なシステムドライバを手動でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <a href="#">第 2 章「はじめに」</a>、はじめに</li><li>■ <a href="#">第 3 章「Windows Server 2008 のインストール」</a>、Windows Server 2008 のインストール</li><li>■ <a href="#">第 4 章「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」</a>、Windows Server 2008 のインストール後のタスク</li></ul>

説明	リンク:
経験を積んだユーザー。Windows オペレーティングシステムの手動インストールに関する内容を参照します。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <a href="#">付録 A 「サポートされるインストール方法」</a>、サポートされるインストール方法</li><li>■ <a href="#">付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」</a>、サポートされているオペレーティングシステム</li><li>■ <a href="#">付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」</a>、新規インストール時の BIOS のデフォルト設定</li><li>■ <a href="#">付録 D 「デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み」</a>、デバイスドライバの WDS イメージへの組み込み</li></ul>

# Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール

---

Oracle Hardware Installation Assistant はオペレーティングシステムのインストールを容易にします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用する場合は、準備が必要なものは、サーバーでサポートされている Linux または Windows OS ディストリビューションメディアのライセンスを受けたコピーだけです。Oracle Hardware Installation Assistant がすべてのソフトウェアとサーバー固有の必須のドライバを提供します。グラフィカルなウィザードのインタフェースと柔軟なインストールオプションにより、Oracle Hardware Installation Assistant はサーバーの配備を簡単にし、配備の速度と信頼性を向上させます。

Oracle Hardware Installation Assistant を使用するには、単純にサーバーの CD ドライブ、USB フラッシュドライブ、またはネットワークイメージから Oracle Hardware Installation Assistant プログラムをブートします。利用可能な最新のプログラム更新を確認してください。使用する OS のディストリビューションをメニューから選択し、画面に表示される指示に従います。Oracle Hardware Installation Assistant はシステムをスキャンして、サーバーコンポーネントを構成するために必要なドライバがあることを確認します [1]。また、利用可能な最新のドライバをプログラムから確認するオプションも用意されています。Oracle Hardware Installation Assistant は、必要に応じて適切なメディア、または OS のインストール中に必要なその他の情報 (ライセンスキーなど) の入力を要求します。

---

注-[1] 一部のオプションカードのドライバは、サーバーにはダウンロードされますが、手動によるインストールが必要となります。Oracle Hardware Installation Assistant の機能は定期的に強化されるので、Oracle Hardware Installation Assistant の情報が記載されたページ (<http://www.oracle.com/goto/hia>) を参照し、最新の更新とサポートされる機能を確認する必要があります。

---

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 14 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要」
- 14 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法」

- 15 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース」

## Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要

Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、次のタスクを実行できます。

---

注-以降に示す、サポートされている Oracle Hardware Installation Assistant のインストールおよび復旧タスクは、サーバーによって異なる場合があります。

---

- Oracle の Sun x86 サーバーへの Linux または Windows オペレーティングシステムの補助付きインストールの実行。Oracle Hardware Installation Assistant から適切なドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアが提供されるため、ドライバディスクを別に作成する必要がありません。
- オプションで、内部ストレージデバイスでの RAID-0 または RAID-1 ボリュームを作成します。
- オプションで、サーバーの OS にかかわらず、システムの Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、BIOS、およびストレージデバイスのファームウェアをアップグレードします。
- オプションで、最新のファームウェアとドライバを使用した Oracle Hardware Installation Assistant セッションを更新します。
- オプションで、破損しているかアクセス不能の Oracle ILOM サービスプロセッサを回復します。

## Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法

Oracle Hardware Installation Assistant はほとんどの Sun Server X2-4 に付属しており、CD フォーマットまたは Web ダウンロードで入手可能です。OS の最新のバージョンをサポートするように、定期的な更新を利用できます。各プラットフォームサーバー用の最新バージョンの Oracle Hardware Installation Assistant は、次からダウンロードできます。

<https://support.oracle.com>

# Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース

Oracle Hardware Installation Assistant を使用して Sun x86 サーバーに Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、次のドキュメントで詳細なインストール手順を参照してください。

- Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーズガイド x86 サーバー版:  
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>





## はじめに

---

この章では、Microsoft Windows Server 2008 SP2 および Microsoft Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのサーバーへの手動インストールを開始する方法について説明します。

---

注- この場合の「手動」とは、Oracle Hardware Installation Assistant を使用せずに、このガイド第2章から第4章で説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。Oracle Hardware Installation Assistant を使用して補助付きの Windows インストールを実行する場合は、このガイドの第1章「[Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール](#)」を参照してください。

---

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 17 ページの「サポートされている Windows Server オペレーティングシステム」
- 18 ページの「Windows インストールの前提条件」
- 20 ページの「Windows Server インストールタスクの概要」
- 20 ページの「Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」

## サポートされている **Windows Server** オペレーティングシステム

Sun Server X2-4 は、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	版
■ Windows Server 2008 SP2	■ Standard Edition (64 ビット) ■ Enterprise Edition (64 ビット) ■ Datacenter edition (64 ビット)
■ Windows Server 2008 R2	■ Microsoft Windows Server 2008 R2、SP1 (64 ビット) ■ Standard Edition (64 ビット) ■ Enterprise Edition (64 ビット) ■ Datacenter edition (64 ビット)

Sun Server X2-4 上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新済みの一覧については、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Server X2-4 のページを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

# Windows インストールの前提条件

サーバーへの Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な前提条件を参照してください。

表 2-1 Windows インストールの前提条件

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	■ Sun Server X2-4 設置ガイド
Windows インストールプログラムをブートできるようにする配備方法が確立されている	Windows オペレーティングシステムをインストールするローカルまたはリモートによる配備方法を選択するためのガイドライン。	■ 付録 A 「サポートされるインストール方法」

表 2-1 Windows インストールの前提条件 (続き)

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
RAID ボリュームの作成	<p>ブートドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。オペレーティングシステムをインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。</p> <p>オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタを使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの構成ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』を参照してください。オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用している場合、BIOS 構成ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』 : <a href="http://www.lsi.com/support/sun/">http://www.lsi.com/support/sun/</a></li> <li>■ 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA 設置ガイド』 : <a href="http://docs.oracle.com/cd/E19221-01/E22410/E22410.pdf">http://docs.oracle.com/cd/E19221-01/E22410/E22410.pdf</a></li> </ul>
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS の出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」</li> </ul>
サーバー固有のデバイスドライバとオプションの追加ソフトウェアのインストール	<p>Windows Server 2008 のインストールを実行したあとに、次の手順が必要な場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 追加ハードウェアをサポートするため、サーバー固有のデバイスドライバをインストールします。 Windows 2008 SP2 には、SAS PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) 用の LSI 大容量ストレージドライバが含まれていません。SAS PCIe HBA オプションをインストールした場合は、インストール中に Tools and Drivers Firmware DVD から SAS PCIe HBA オプション用の LSI 大容量ストレージドライバにアクセスできるようにする必要があります。サポートされている SAS PCIe HBA のリストについては、表 2-2 を参照してください。</li> <li>■ x86 サーバーで使用可能な Windows Server のオプションの追加ソフトウェアをインストールします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第 4 章 「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」</li> <li>■ 20 ページの「Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」</li> </ul>
サーバー固有のデバイスドライバを WIM イメージに組み込む	上級ユーザーは、インストール後システムのデバイスドライバを WDS のブートイメージおよびインストールイメージに組み込むことができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 付録 D 「デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み」</li> </ul>
OS のインストールに関する最新情報とパッチの入手	サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチについては、『Sun Server X2-4 プロダクトノート』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Server X2-4 プロダクトノート</li> </ul>

## Windows Server インストールタスクの概要

手動で Windows Server 2008 (SP2 または R2) をインストールするには、次の手順を順番に実行します。

1. [第 5 章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#) の説明に従って Sun x86 サーバプラットフォームの最新ドライバとユーティリティをダウンロードして、Tools and Drivers Firmware を入手します。

Windows Server 2008 SP2 のインストールプログラムには、Sun Storage SAS PCIe HBA オプション用の LSI ドライバが含まれていません。したがって、サーバー上に SAS PCIe HBA を構成し、Windows 2008 SP2 をインストールする場合は、インストールプロセス中に Tools and Drivers Firmware DVD から SAS PCIe HBA オプション用の LSI 大容量ストレージドライバにアクセスできるようにする必要があります。

Sun Server X2-4 でサポートされている SAS PCIe HBA のリストについては、[20 ページの「Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」](#) を参照してください。

---

注- オプションで、上級ユーザーはドライバを WDS イメージに組み込むことができます。ドライバを WDS イメージに組み込む方法の手順については、[付録 D「デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み」](#) を参照してください。

---

2. [付録 A「サポートされるインストール方法」](#) を参考にして、Windows Server インストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
3. [第 3 章「Windows Server 2008 のインストール」](#) で説明する、Windows Server オペレーティングシステムの手動インストールを実行します。
4. [第 4 章「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」](#) で説明する、Windows Server のインストール後のタスクを実行します。

## Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

[表 2-2](#) に、Sun Server X2-4 でサポートされている SAS PCIe ホストバスアダプタオプションを示します。サーバー上にこれらの SAS PCIe HBA オプションのいずれかを構成し、Windows Server 2008 SP2 をインストールする場合は、インストール中に Tools and Drivers Firmware DVD から PCIe HBA オプション用の LSI 大容量ストレージドライバを読み込む必要があります。

注 – Sun Server X2-4 対応の購入可能な HBA オプションカードを確認するには、Sun x86 サーバーの Web サイト (<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>) にアクセスし、Sun Server X2-4 のページに移動します。

表 2-2 大容量ストレージドライバを必要とする、サポートされている SAS PCIe HBA

サポートされている SAS PCIe HBA	オプション番号	インストール中に必要なドライバ
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA	SG-SAS6-R-INT-Z	LSI MegaRAID SAS 92xx-xx
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA	SG-SAS6-INT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 外部 HBA	SG-SAS6-EXT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon

Windows Server 2008 SP2 のインストール中に LSI 大容量ストレージドライバを読み込む手順については、25 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール」の手順 8 を参照してください。

Tools and Drivers Firmware DVD をお持ちでない場合は、Tools and Drivers Firmware の ISO イメージをダウンロードできます。詳細は、第 5 章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。



# Windows Server 2008 のインストール

---

この章では、Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムの手動インストールについて説明します。

---

注 - この場合の「手動」とは、Oracle Hardware Installation Assistant を使用せずに、このガイド第2章から第4章で説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。Oracle Hardware Installation Assistant を使用して補助付きの Windows インストールを実行する場合は、このガイドの第1章「[Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール](#)」で詳細を確認してください。

---

この章は、次の項目で構成されています。

- 23 ページの「始める前に」
- 24 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server のインストール」
- 36 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server のインストール」

## 始める前に

Windows Server オペレーティングシステムを手動インストールするため、この章の手順に進む前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- オペレーティングシステムをインストールするための該当するインストール前提条件をすべて満たしている必要があります。これらの前提条件については、[18 ページの「Windows インストールの前提条件](#)」を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール方法(コンソール出力、ブートメディア、インストール先など)を検討し、すでに決定している必要があります。これらの設定に関する要件については、[付録 A 「サポートされるインストール方法](#)」を参照してください。

- Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2) オペレーティングシステムのドキュメントを、この章の Windows Server オペレーティングシステムに関する説明と併せて参照してください。Microsoft の Windows Server 2008 インストールドキュメントは、<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx> で入手できます。

この手順の完了後、このガイドで後述する、インストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細は、[第 4 章「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」](#)を参照してください。

## ローカルまたはリモートのメディアを使用した **Windows Server** のインストール

このセクションの手順では、ローカルまたはリモートのメディアから Windows Server 2008 (SP2 または R2) オペレーティングシステムをブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートするものとします。

- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 (あるいはそれ以降のリリース) CD または DVD
- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 (あるいはそれ以降のリリース) ISO イメージ
- 

---

注 - Windows Server 2008 (SP 2 または R2) ISO イメージは、リモートインストール、またはインストール CD/DVD の作成に使用できます。

---

---

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[36 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server のインストール」](#)で手順を確認してください。

---



## ▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール

- 1 インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD の場合。Windows 2008 ディストリビューションメディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
  - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。  
インストールメディアを設定する方法の詳細は、表 A-2 を参照してください。
- 2 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- Oracle ILOM Web インタフェースから、ナビゲーションツリーで「Host Management」>「Power Control」を選択します。次に、「Select Action」リストボックスから「Power Cycle」を選択し、「Save」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 3 BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Windows インストールの一時的なブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

注-インストール時に表示されるダイアログボックスは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。



- 4 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Windows メディアのインストール方法に応じたメニューオプションを選択し、Enter キーを押します。

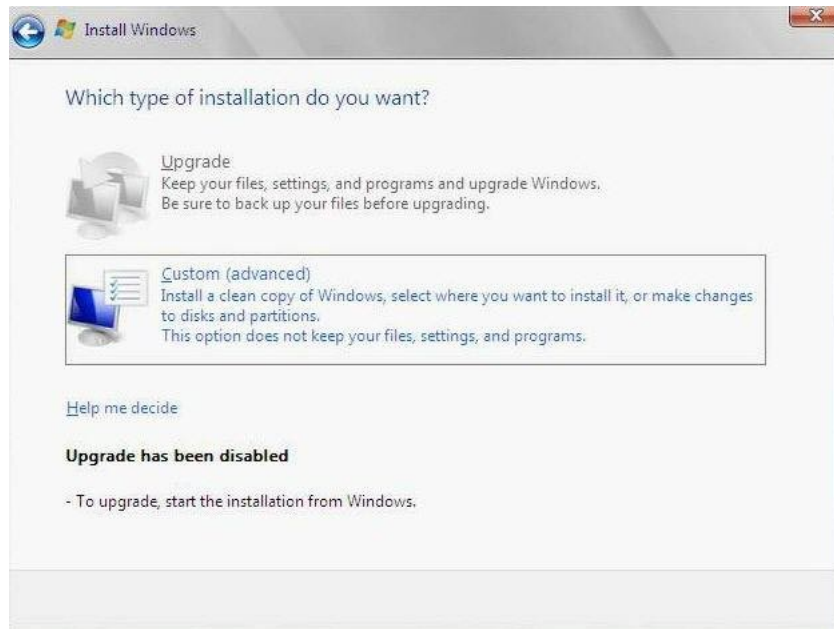
例:

- Windows のローカル配布を選択した場合は、物理 DVD デバイスとして「TEAC」を選択します (または、「Boot Device」ダイアログボックスに「CD/DVD」が表示されている場合はこのオプションを選択します)。
- Oracle ILOM リモートコンソール配布を選択した場合は、「Virtual CDROM」を選択します。

- 5 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

「インストールの種類」ダイアログが表示されるまで Windows インストールウィザードを進めます。



- 6 「インストールの種類」ダイアログボックスで、「カスタム (詳細)」をクリックします。
- 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



- 7 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログボックスで、次の表のいずれかのタスクを実行して、**Windows Server** オペレーティングシステム版の保存先を指定します。

Windows Server 版	タスク
Windows Server 2008 SP2 (または以降の Windows 2008 SP リリース)	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 保存先が表示されず、サーバー上に Sun Storage SAS PCIe RAID HBA オプションを構成している場合は、「ドライバの読み込み」をクリックしてから、手順 <b>8</b>に進みます。 または</li><li>■ オペレーティングシステムをインストールする保存先が表示されるが、その保存先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、「ドライブオプション」をクリックしてから、手順 <b>9</b>に進みます。 または</li><li>■ オペレーティングシステムをインストールする保存先が表示され、その保存先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、保存先を選択して「次へ」をクリックしてから、手順 <b>10</b>に進みます。</li></ul>
Windows Server 2008 R2 (または以降の Windows 2008 R2 リリース)	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ オペレーティングシステムをインストールする保存先が表示されるが、その保存先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、「ドライブ オプション」をクリックしてから、手順 <b>9</b>に進みます。 または</li><li>■ オペレーティングシステムをインストールする保存先が表示され、その保存先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、保存先を選択して「次へ」をクリックしてから、手順 <b>10</b>に進みます。</li></ul>

- 8 (HBA ストレージドライバの読み込み) 「ドライバの読み込み」ダイアログボックスで、次の手順を実行します。



- a. 選択したインストール方法に応じて、ストレージドライバにアクセスできることを必ず確認してください(付録 A 「サポートされるインストール方法」を参照)。

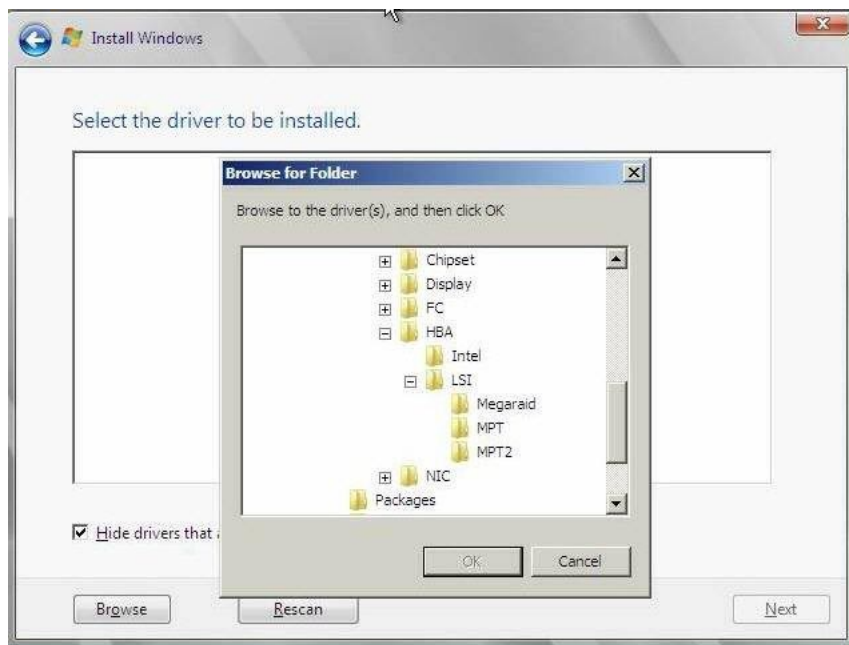
例:

- フロッピーディスクローカル。サーバーのフロッピードライブ A に挿入されたフロッピーディスク上のストレージドライバ。
- フロッピーディスクリモート。Oracle ILOM リモートコンソールからデバイスとしてマウントされたフロッピードライブに挿入されたフロッピーディスク上のストレージドライバ。
- フロッピーイメージ。ストレージドライバ **floppy.img** ファイルが Oracle ILOM リモートコンソールからデバイスとしてマウントされます。
- フロッピー以外のメディア。ストレージドライバは、ローカルな物理ストレージメディア (USB フラッシュドライブまたは CD/DVD)、あるいは Oracle ILOM リモートコンソールからマウントされた仮想メディア上にあります。

- b. 「ドライバの読み込み」ダイアログで「参照」をクリックし、適切なドライバメディアフォルダに移動します。

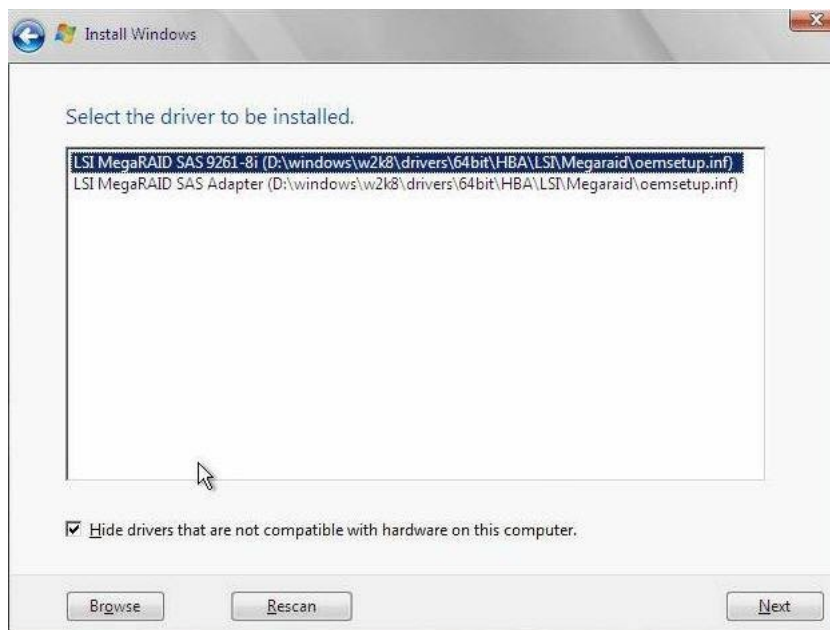
SAS PCIe HBA オプションカード SG-SAS6-R-INT-Z を使用して構成されたシステムの場合は、[windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/megaraid](#) ディレクトリに移動して、適切な LSI ドライバを読み込みます。

SAS PCIe HBA オプションカード SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z のいずれかを使用して構成されたシステムの場合は、[windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/mpt2](#) ディレクトリに移動して、適切なドライバを読み込みます。

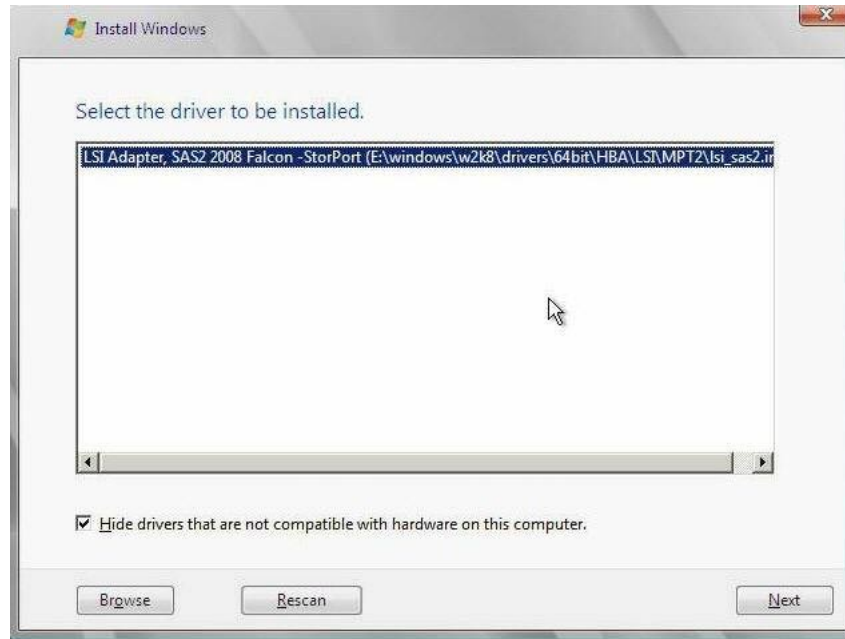


- c. 「フォルダを参照」ダイアログで、適切なドライバを選択し、「OK」をクリックしてドライバを読み込みます。

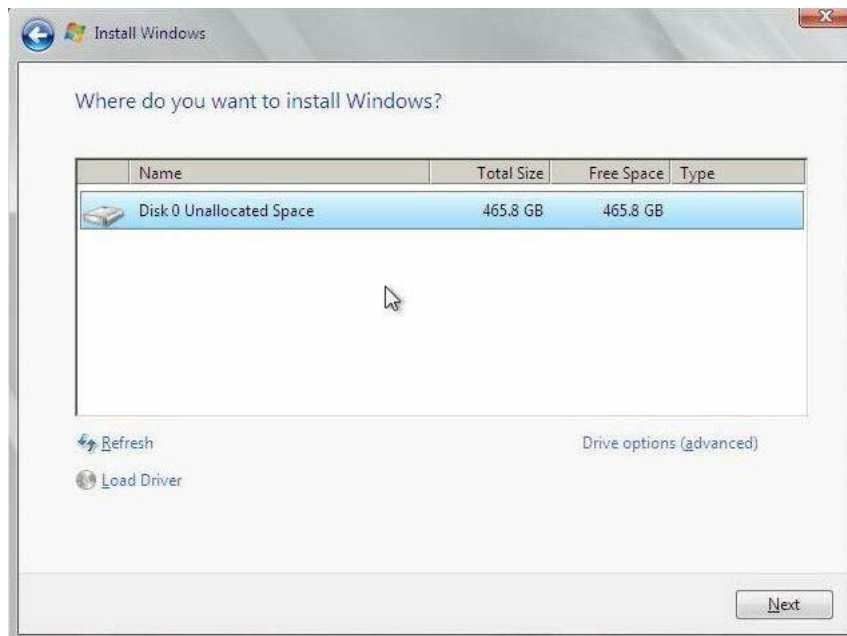
「インストールするドライバを選択してください」ダイアログに、選択したドライバが表示されます。次のダイアログボックス例には、SAS PCIe HBA 用に選択されたマストレージドライバが表示されています。





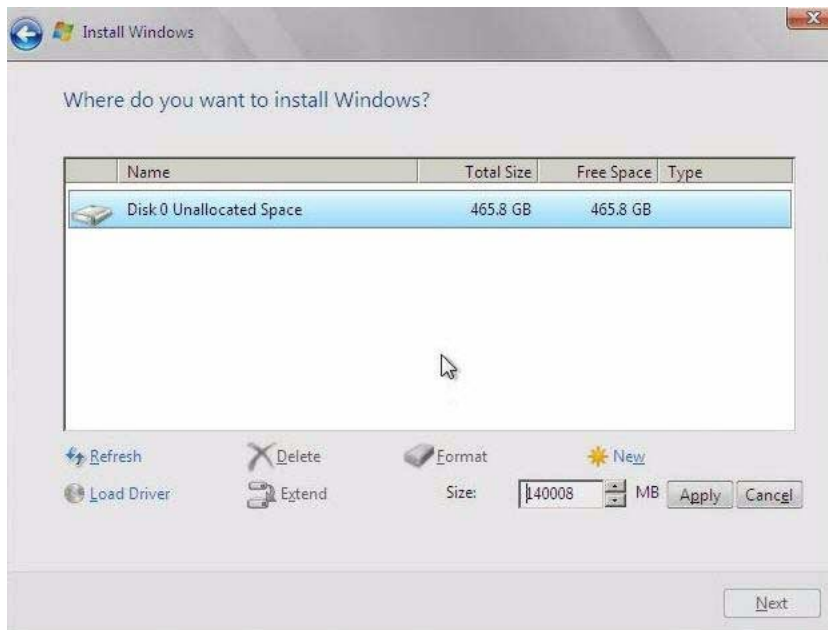


- d. 「インストールするドライバを選択してください」ダイアログで、「次へ」をクリックしてドライバをインストールします。
- 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



- e. 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログで、次のいずれかの操作を実行します。
- 一覧表示されている保存先を選択し、「次へ」をクリックしてオペレーティングシステムをインストールしてから、手順 10 に進みます。  
または
  - 一覧表示されている保存先を選択し、「ドライブ オプション (詳細)」をクリックしてデフォルトのパーティション設定を表示および変更してから、手順 9 に進みます。  
選択したターゲットのパーティション設定は、「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログボックスの下部に表示されます。

- 9 (パーティションドライブ、詳細)「**Windows**のインストール場所を選択してください」ダイアログの下部で、次の手順を実行します。



- 「削除」をクリックして、選択したストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。  
確認のウィンドウが表示されます。
  - 「**OK**」をクリックして、パーティションの削除を確定します。
  - 「新規」をクリックして、選択した保存先に新しいパーティションを作成します。
  - 「サイズ」スクロールボックスで、必要に応じてパーティションサイズを増減させ、「適用」をクリックします。  
パーティションが作成されます。
  - 「次へ」をクリックして、選択したストレージ先にオペレーティングシステムをインストールします。
- 10 **Windows** インストールプログラムが開始され、インストールプロセス中にサーバーが複数回リブートします。

- 11 **Windows** のインストールが完了すると、**Windows** が起動し、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。
- 12 ユーザーパスワードのダイアログで「**OK**」をクリックし、初期のユーザーログインアカウントを設定します。

---

注 - Windows Server 2008 では、ユーザーアカウントに対し、より強力なパスワードスキームが適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページの「ユーザー補助」リンクをクリックしてください。

---

初期ユーザーアカウントが作成されると、Windows Server 2008 のデスクトップが表示されます。

- 13 第 4 章「**Windows Server 2008 のインストール後のタスク**」に進み、インストール後のタスクを実行します。

## PXE ネットワークブートを使用した **Windows Server** のインストール

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを介して Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) オペレーティングシステムをインストールするために必要となる初期情報について説明し、従う必要のある手順を示します。

このセクションに含まれるトピック:

- 36 ページの「始める前に」
- 37 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール」

このセクションで説明する手順は、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows Server 2008 をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS を使用して Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法については、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

### 始める前に

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。

- インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を構成します。
  - WDS を使用してインストールを実行するには、次の操作が必要です。
    - 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージ、および必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。
- WIM インストールイメージにドライバを追加するためのガイドラインについては、[付録 D 「デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み」](#) を参照してください。
- WIM の管理者パスワードを取得します。

## ▼ PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール

- 1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「Host Management」>「Power Control」を選択します。次に、「Select Action」リストボックスから「Power Cycle」を選択し、「Save」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM CLI** から、「`reset /System`」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 2 **F8**を押して、一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
- 3 「**Please Select Boot Device**」メニューで、適切な **PXE** インストールブートデバイスを選択し、**Enter** キーを押します。  
PXE インストールブートデバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されている物理ネットワークポートです。  
「Boot Agent」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「**Boot Agent**」ダイアログで、**F12** キーを押してネットワークサービス起動を選択します。
- 5 通常の **Windows Server 2008 SP2** または **R2 WDS** ネットワークインストールを続行します。  
詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
- 6 インストールが完了したら、[第4章「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」](#)に進んでインストール後のタスクを実行します。

## Windows Server 2008 のインストール後のタスク

---

Windows Server 2008 (SP2 または R2) オペレーティングシステムのインストールを完了してサーバーをリブートしたら、次に示すインストール後のタスクを確認し、使用しているサーバーに該当するタスクを必要に応じて実行するようにしてください。

- 39 ページの「不可欠なデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」
- 41 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 42 ページの「TPM のサポートの構成」
- 43 ページの「Intel NIC チーミングの構成」

### 始める前に

この章の手順は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールしています
- Tools and Drivers Firmware DVD を入手しています

Tools and Drivers Firmware DVD をお持ちでない場合は、My Oracle Support サイトから最新の Tools and Drivers Firmware をダウンロードできます。手順については、[第5章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

### 不可欠なデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

Tools and Drivers Firmware DVD には、サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードが用意されています。サーバー固有のデバイスドライバは、使用しているサーバーにインストールできるオプションのハードウェアデバイスをサポートするために提供されます。

## ▼ サーバー固有のデバイスドライバのインストール

- 1 **Tools and Drivers Firmware DVD** をローカルまたはリモートの **USB DVD** ドライブに挿入し、次のいずれかを実行します。
  - **DVD** が自動的に起動した場合は、「**Install Drivers and Supplement Software**」をクリックします。
  - **DVD** が自動的に起動しない場合は、適切な **InstallPack** ファイル (**InstallPack\_1\_0\_1.exe** など) が格納された次のいずれかのフォルダに移動して、ダブルクリックします。
    - <DVD>/Windows/W2K8/Packages
    - <DVD>/Windows/W2K8R2/Packages

「Server Installation Package」ダイアログが表示されます。
- 2 「**Install Pack**」ダイアログで、「**Next**」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

---

注-最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「default installable items」を常に受け入れるようにしてください。

---

- 「Install Pack notice」ダイアログが表示されます。
- 3 「**Install Pack notice**」ダイアログで、メッセージを読んでから「**Next**」をクリックします。

「Welcome to the Sun Fire Installation Wizard」が表示されます。
  - 4 「**Welcome to the Sun Fire Installation Wizard**」ダイアログボックスで、「**Next**」をクリックします。

「End User License Agreement」ページが表示されます。
  - 5 「**End User License Agreement**」ページで、「**I Accept This Agreement**」を選択してから、「**Next**」をクリックします。

プラットフォーム固有のドライバがインストールされます。緑のチェックマークは、各ドライバが正常にインストールされたことを表します。
  - 6 「**Driver Installation Pack**」ダイアログボックスで「**Finish**」をクリックします。

「System Settings Change」ダイアログが表示されます。



注-追加ソフトウェアのインストールを行う場合(強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

7 次のいずれかの操作を実行します。

- **手順2**でデフォルトのインストール可能な設定を受け入れた場合は、「No」をクリックして41ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。
- 追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「Yes」をクリックしてコンピュータを再起動します。

## 追加ソフトウェアのインストール

Sun Server X2-4 には、使用可能な追加ソフトウェアコンポーネントが複数あります。インストールには次の2つのオプションがあります。

- 通常。サーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- カスタム。インストール用に選択した追加ソフトウェアのみをインストールします。

表4-1 に、サーバーで使用可能なオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

表4-1 インストールパックのオプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI 統合 RAID コントローラ搭載のサーバー	Intel 統合ディスクコントローラ搭載のサーバー
<b>LSI MegaRAID Storage Manager</b> 、「Yes」をクリックしてコンピュータを再起動します。  SAS 内蔵 RAID ホストバスアダプタで RAID を構成、監視、および維持管理できます。	通常	該当なし
<b>IPMITool</b> コマンド行ユーティリティ  IPMITool コマンド行ユーティリティは、BMC (別名サービスプロセッサ (SP)) を使用して、センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、現場交換可能ユニット (FRU) インベントリ情報を表示し、LAN 構成パラメーターを取得および構成し、シャーシの電源制御処理を実行します。	通常	通常
<b>Intel NIC チーミング</b>  サーバー上のネットワークインタフェースを、仮想インタフェースと呼ばれる物理ポートのチームにグループ化できます。	通常	通常

## ▼ 追加ソフトウェアのインストール



注意- 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。コンポーネントが削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中にはダイアログボックスの内容を注意深く確認して、結果が期待どおりになるようにしてください。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - 39 ページの「不可欠なデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」の手順を実行するときに追加ソフトウェアを選択しなかった場合は、この手順に戻って再度実行します。ただしその際は、**手順2**でデフォルトの設定を受け入れ(デフォルトでは追加ソフトウェアをインストールします)、**手順7**で「No」を選択してください。次に、この手順の**手順2**に進みます。
  - 39 ページの「不可欠なデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」の**手順2**の「Server Installation Package」ダイアログボックスで追加ソフトウェアを選択し、**手順7**で「No」を選択した場合は、「Install Pack Supplemental Software」ダイアログボックスが表示されます。この手順の**手順2**に進みます。
- 2 「Install Pack Supplemental Software」ダイアログボックスで、「Next」をクリックして通常設定を受け入れるか、「Custom」を選択してインストールするオプションを選択します(表 4-1 の追加ソフトウェアの説明を参照)。  
コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。
- 3 追加ソフトウェアがインストールされたら、「Finish」をクリックします。
- 4 「System Setting Change」ダイアログボックスで「Yes」をクリックして、システムを再起動します。  
Sun Server インストールパッケージソフトウェアを Tools and Drivers Firmware DVD から実行した場合は、ここで DVD をシステムから取り出します。

## TPM のサポートの構成

Windows Server 2008 で提供される Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを構成する必要があります。手順については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Server X2-4 サービスマニュアル

---

注-TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装の詳細は、Microsoft が提供する Windows Trusted Platform Module Management のドキュメントを参照してください。

---

## Intel NIC チーミングの構成

現在の環境で NIC チーミングを設定する方法については、次の Advanced Networking Services Teaming に関する Intel Connectivity の Web ページを参照してください。

<http://support.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式を次からダウンロードできます。

<http://support.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>



## サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

---

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

- 45 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
- 46 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
- 46 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
- 47 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 51 ページの「更新のインストール」

## ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード(パッチ)です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Sun Server X2-4 の出荷時にインストール済みの機能で、サーバーファームウェアおよびソフトウェアを簡単に更新できるようにします。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームウェアおよびソフトウェアは、My Oracle Support Web サイトから入手できます。  
My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、<http://support.oracle.com> を参照してください。  
My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法の手順については、47 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」を参照してください。
- 物理メディアのリクエスト (PMR) – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。  
詳細は、48 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。

## 入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードする タイミング
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ILOM_AND_BIOS	Oracle ILOM および BIOS	最新のプラットフォーム ファームウェアが必要です。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ORACLE_HARDWARE_ INSTALLATION_ASSIST ANT	Oracle Hardware Installation Assistant の回復と ISO 更新イ メージ。	Oracle Hardware Installation Assistant を手動で回復するか 更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – TOOLS_DRIVERS_AND_ FIRMWARE_DVD	ツールおよびドライバおよび プラットフォームファーム ウェアが含まれます。この DVD イメージには Oracle VTS は含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合 わせを更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.0 – DIAGNOSTICS	Oracle VTS 診断イ メージ。	Oracle VTS 診断イ メージが必 要です。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエ  
ストする方法について説明します。次を参照してください。

- 47 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウ  
ンロード」
- 48 ページの「物理メディアのリクエスト」

### ▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソ フトウェアのダウンロード

- 1 Web サイト <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。  
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。  
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。  
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部 (Sun Server X2-4  
など) を入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。  
使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。  
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。  
入手可能なダウンロードについては、[46 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします。(Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。)  
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 更新をダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。  
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。  
パッチファイルがダウンロードされます。

# 物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	<a href="#">49 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」</a>
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	<a href="#">49 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」</a> <a href="#">50 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」</a>



## 物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。

- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 47 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の指示に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 46 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」に記載された情報を参照して、目的のパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリース向けのパッケージをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

### ▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、49 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
  - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。  
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
  - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、「**Sun Server X2-4** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**」と入力します。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	はい
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X2-4 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。  
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「送信」をクリックします。

## ▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、[49 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載の情報を収集してください。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。

<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 2 Oracle サポート部門に、**Sun Server X2-4**の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を知らせます。
  - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
  - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X2-4** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

## 更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [51 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [52 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

## ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Oracle から最新のファームウェアをダウンロードし、インストールできます。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 のドキュメントライブラリは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> でアクセスできます。

## ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、**Oracle Enterprise Manager Ops Center** を使用してインストールできます。詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

## パート II

# Windows Server システム管理者リファレンス

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、Windows Server 2008 (SP2 または R2) オペレーティングシステムのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
Windows Server インストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップに関するガイドライン	付録 A 「サポートされるインストール方法」
本書の発行時点に Server X2-4 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」
Windows Server のインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」
上級ユーザーが Windows Imaging Format (WIM) ファイルにサーバー固有のドライバを組み込む手順	付録 D 「デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み」



## サポートされるインストール方法

---

サーバーに Windows オペレーティングシステムをインストールする最適な方法を決  
定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [55 ページの「コンソール出力」](#)
- [57 ページの「インストールブートメディア」](#)
- [60 ページの「インストール先」](#)

### コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示す  
るためのコンソールを一覧表示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	設定要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ シリアルコンソール</li><li>■ VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li><li>2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。</li><li>3. シリアルコンソール接続の場合のみ、<b>start /SP/console</b> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。</li></ol> <p>サーバー SP との接続の確立方法については、<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。</p> <p>Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 のドキュメントライブラリ (<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30</a>) にアクセスすることもできます。</p>



表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続</li> <li>■ シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』を参照してください。</li> <li>2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 <b>Web</b> ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 <b>SSH</b> クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (<b>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</b>)。2) Oracle ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) <b>start /SP/console</b> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。</li> </ol> <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

## インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。表 A-2 に、サポートされているメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ CD/DVD-ROM または USB インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面のパネルに適切なストレージデバイスを接続します。</li><li>2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li></ol>

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされている OS のリモートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li> <li>■ CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア</li> <li>■ 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)</li> </ul>	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。  <b>CD/DVD-ROM</b> の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。  <b>CD/DVD-ROM ISO</b> イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。            デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。            デバイスドライバフロッピーの <b>ISO</b> イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。</li> <li>2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。</li> <li>3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します。  <b>CD/DVD-ROM</b> ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。  <b>CD/DVD-ROM ISO</b> イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。            フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。            フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。</li> </ol> <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア (続き)	注- 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると、複数のシステム間で構成を統一できます。自動インストールでは、PXE (Pre-boot eXecution Environment) テクノロジを使用することで、クライアントはオペレーティングシステムなしでオペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーにリモートでブートできます。	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. PXE ブート経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。</li><li>2. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。 - Windows WDS イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</li><li>3. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。</li></ol>

# インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (HDD) またはソリッドステートドライブ (SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	<p>HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。</p> <p>HDD または SSD の取り付けおよび電源の投入方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。</p>	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。

表 A-3 OS インストールのインストール先 (続き)

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ファイバチャネル (FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サーバーに FC PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。</li> <li>■ ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および構成します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。</li> </ul>	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」に示す、すべてのオペレーティングシステム。



# サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 B-1 では、このドキュメントの発行時に Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムについて説明します。

Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスして、Sun Server X2-4 のページに移動してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

## サポートされているオペレーティングシステム

Oracle の Sun Server X2-4 は、次のオペレーティングシステムまたはそれ以降のリリースのインストールと使用をサポートします。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Linux	Oracle Linux 5.5 - 6.2 (64 ビット) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 5.6 - 6.1 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 - 6.0 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Server X2-4 Linux オペレーティングシステムインストールガイド</li> </ul>
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle Solaris 11 11/11</li> <li>■ Oracle Solaris 10 8/11</li> <li>■ Oracle Solaris 10 9/10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Server X2-4 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド</li> </ul>

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム (続き)

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Oracle VM ソフトウェア	■ Oracle VM 2.2.1 - 3.0.3	■ Sun Server X2-4 Oracle VM ソフトウェアインストールガイド
Windows	■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Standard Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Enterprise Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Datacenter Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、 SP1 (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、 Standard Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、 Enterprise Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、 Datacenter Edition (64 ビット)	■ <a href="#">第 3 章「Windows Server 2008 のインストール」</a>



## 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

---

ディスクドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に構成されていることを確認するようにしてください。

- システム時間
- システム日付
- ブート順序

## BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

## 始める前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。詳細は、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。

- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、表 A-1 を参照してください。

## ▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

- 1 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM CLI** から、「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. **F9** を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter** キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関係する値を編集します。
    - a. 変更する値を強調表示します。  
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します
    - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
      - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
      - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
      - **Enter** を押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します
  - 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。  
「Boot Settings」メニューが表示されます。
  - 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter** を押します。  
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
  - 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
    - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter** を押します。
    - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter** を押します。  
「Boot Device Priority」メニューおよび「Options」メニューに一覧表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。
- 
- 注- 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。
- 
- 8 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** を押します。  
または、「Exit」メニューで「Save」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。  
メッセージダイアログで「OK」を選択して、**Enter** を押します。

---

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。コンソールのいちばん上で使用できる「Keyboard」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

---

# デバイスドライバの Windows 展開サービス用 Windows Server 2008 WIM イメージへの組み込み

---

このセクションは、Windows Server 2008 (SP2 または R2) デバイスドライバを Windows Imaging Format (WIM) ファイルに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この付録では、システム管理者が Microsoft の Windows 展開サービス (WDS) を使用して、ネットワーク経由で Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールを展開するものとします。

---

注 - この付録は、WDS または Microsoft の Windows System Imaging Manager (WSIM) のチュートリアルとなるものではありません。WDS または WSIM の詳細は、Microsoft の WDS および WSIM のドキュメントを参照してください。

---

このセクションのトピックは次のとおりです。

- 70 ページの「はじめに」
  - 70 ページの「Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所」
  - 71 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」
  - 71 ページの「前提条件とタスクの概要」
- 74 ページの「ドライバを WIM イメージに組み込む手順」
  - 74 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成 - Windows Server 2008 (SP2 または R2)」
  - 79 ページの「デバイスドライバのブート WIM への追加 - Windows Server 2008 SP2 のみ」
  - 82 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールイメージにマッピングする」

# はじめに

このセクションのトピックは次のとおりです。

- 70 ページの「Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所」
- 71 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」
- 71 ページの「前提条件とタスクの概要」

## Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所

表 D-1 に、Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバディレクトリの場所を示します。

注 – Sun Server X2-4 で使用できる最新のデバイスドライバを入手するには、My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) から Tools and Drivers Firmware の ISO イメージをダウンロードします。手順については、第 5 章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

表 D-1 Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所

デバイスドライバ	Tools and Driver Firmware DVD 上のディレクトリの場所
Intel ネットワークドライバ	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\NIC\intel</li><li>■ Windows 2008 SP2 の場合: windows\w2k8\drivers\NIC\intel</li></ul>
Aspeed ドライバ	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\display\aspeed</li><li>■ Windows 2008 SP2 の場合: windows\w2k8\drivers\display\aspeed</li></ul>
LSI MegRAID ドライバ: <ul style="list-style-type: none"><li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-INT-Z</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/megaraid</li></ul>
LSI MPT2 ドライバ: <ul style="list-style-type: none"><li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、SG-SAS6-INT-Z</li><li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、SG-SAS6-EXT-Z</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/mpt2</li></ul>

表 D-1 Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所 (続き)

デバイスドライバ	Tools and Driver Firmware DVD 上のディレクトリの場所
Intel ICH10 コントローラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\64bit\HBA\intel</li> <li>■ Windows 2008 SP2 の場合: windows\w2k8\drivers\64bit\HBA\intel</li> </ul>

## WIM イメージに組み込むデバイスドライバ

表 D-2 に、Windows Server 2008 (SP2 または R2) の WIM イメージに組み込むデバイスドライバを示します。表 D-2 の boot WIM イメージは Windows Server 2008 SP2 インストールにのみ必要であり、表 D-2 の install WIM イメージは Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 インストールの両方に必要です。

注 - Sun Server X2-4 対応の購入可能な SAS PCIe HBA オプションカードを確認するには、Sun x86 サーバーの Web サイト (<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>) にアクセスし、Sun Server X2-4 のページに移動します。

表 D-2 WIM イメージに追加するデバイスドライバ

組み込むデバイスドライバ	Windows Server 2008 (SP2 および R2) install.wim に追加	Windows Server 2008 SP2 のみ boot.wim に追加
Intel ネットワークドライバ	X	X
Aspeed グラフィックドライバ	X	
サーバーに取り付けられている SAS PCIe HBA オプションカード: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-INT-Z</li> <li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、SG-SAS6-INT-Z</li> <li>■ Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA、SG-SAS6-EXT-Z</li> </ul>	X	X
Intel ICH10 コントローラ	X	

## 前提条件とタスクの概要

Windows Server 2008 (SP2 または R2) 用のデバイスドライバの WIM イメージを作成する前に、次のタスクを指定した順序で必ず完了してください。

1. ネットワーク内のサーバーに Windows 展開サービスをインストールおよび構成します。詳細は、次から Microsoft の Windows 展開サービスに関する手順ガイドをダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=14CA18B1-B433-4F62-8586-B0A2096460EB&26;displaylang=en>。

2. Windows 自動インストールキット (WAIK) をインストールします。WAIK には、WIM イメージをマウントおよび変更するアプリケーションと、XML 無人セットアップスクリプトを作成および変更するアプリケーションが含まれています。

Microsoft は、Windows Server 2008 SP2 用と Windows Server 2008 R2 用に別々の WAIK ダウンロードを提供しています。これらのダウンロードの URL は次のとおりです。

- Windows Server 2008 SP2: <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=94BB6E34-D890-4932-81A5-5B50C657DE08&26;displaylang=en>
- Windows Server 2008 R2: <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=696DD665-9F76-4177-A811-39C26D3B3B34&26;displaylang=en>

3. Tools and Driver Firmware DVD 上の Windows デバイスドライバを見つけます。Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所については、70 ページの「Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所」を参照してください。

4. ネットワーク共有デバイスドライバリポジトリを作成します。例:

- Windows Server 2008 (SP2 または R2) のデバイスドライバを格納するデバイスドライバリポジトリを作成します。

Windows Server 2008 WDS インストール環境の場合は、デバイスドライバリポジトリが提供されていますが、変更可能です。Windows Server 2003 SP2 WDS インストール環境の場合は、デバイスドライバリポジトリは提供されていないので、手動で作成する必要があります。次の例は、新しいデバイスドライバリポジトリのディレクトリ構造を設定する方法を示したものです。

C:\unattend\drivers\{w2K8|w2k8R2}\catalogs\vendor\version

ここでは:

- unattend は無人デバイスドライバストア
- drivers はデバイスドライバディレクトリの名前
- {w2K8 or w2k8R2} は Windows Server 2008 (SP2 または R2) のデバイスドライバディレクトリの名前
- catalogs は Windows Server 2008 (SP2 は R2) のカタログファイルの名前
- vendor はデバイスドライバベンダーのディレクトリの名前



- version はデバイスドライババージョンのディレクトリの名前
- デバイスドライバリポジトリ内のディレクトリ (フォルダ) は必ず共有し、ネットワークインストール中に Windows 展開サービス (WDS) にアクセスできるようにしてください。

たとえば、この付録で参照するデバイスドライバリポジトリのネットワーク共有は、次のように設定します。

リポジトリフォルダ	ネットワーク共有
C:\Unattended\Drivers\W2K8	\\wds-server\W2K8-Drivers
C:\Unattended\Drivers\W2K8R2	\\wds-server\W2K8R2-Drivers

- Tools and Drivers Firmware DVD 上の Windows Server 2008 デバイスドライバを抽出して、デバイスドライバリポジトリに配置します。

Tools and Driver Firmware DVD 上の Windows Server 2008 デバイスドライバの場所の詳細は、[70 ページの「Tools and Drivers Firmware DVD 上のデバイスドライバの場所」](#)を参照してください。

Tools and Drivers Firmware DVD をお持ちでない場合は、Tools and Drivers Firmware DVD の ISO イメージをダウンロードできます。詳細は、[第 5 章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

次の例は、SAS PCIe HBA ドライバ (バージョン番号例: 1.19.2.64) を Tools and Drivers Firmware DVD からデバイスドライバリポジトリにコピーしたあとのデバイスドライバリポジトリのディレクトリ構造を示したものです。

オペレーティングシステム	Tools and Drivers Firmware DVD	デバイスドライバリポジトリ
Windows Server 2008 SP2	DVDDevice:\windows\W2K8\drivers\64bit\hba\lsi\mpt2	C:\unattend\drivers\W2K8\lsi\1.19.2.64
Windows Server 2008 R2	DVDDevice:\windows\W2K8R2\drivers\64bit\hba\lsi\mpt2	C:\unattend\drivers\W2K8R2\lsi\1.19.2.64

5. Windows Server 2008 (SP2 または R2) 用の imageunattend.xml セットアップスクリプトを作成します。詳細は、[74 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成 - Windows Server 2008 \(SP2 または R2\)」](#)を参照してください。

6. Windows Server 2008 SP2 (のみ) インストールの場合は、表 D-2 に示した必須のブートデバイスドライバを `boot.wim` に追加します。デバイスドライバの `boot.wim` への追加の詳細は、79 ページの「デバイスドライバのブート WIM への追加 - Windows Server 2008 SP2 のみ」を参照してください。
7. `imageunattend.xml` セットアップスクリプトを Windows Server 2008 イメージにマッピングします。詳細は、82 ページの「`ImageUnattend.xml` セットアップスクリプトを Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールイメージにマッピングする」を参照してください。
8. Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 インストールの場合は、表 D-2 に示す必須のデバイスドライバを `install.wim` イメージに追加します。

## ドライバを WIM イメージに組み込む手順

次に示す手順は、デバイスドライバの WIM イメージファイルへの追加に使用できるガイドラインです。これらの手順は次に示す順序で実行してください。

- 74 ページの「`ImageUnattend.xml` セットアップスクリプトの作成 - Windows Server 2008 (SP2 または R2)」
- 79 ページの「デバイスドライバのブート WIM への追加 - Windows Server 2008 SP2 のみ」
- 82 ページの「`ImageUnattend.xml` セットアップスクリプトを Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールイメージにマッピングする」

## 開始前のご注意

このセクションの手順を実行する前に、71 ページの「前提条件とタスクの概要」に示すすべての前提条件を必ず満たしてください。

### ▼ **ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成 - Windows Server 2008 (SP2 または R2)**

次の手順に従って、Windows Server 2008 (SP2 または R2) インストール用の `ImageUnattend.xml` セットアップスクリプトを作成します。生成されたセットアップスクリプトは、デバイスドライバリポジトリに保存されます。

---

注 - ImageUnattend.xml セットアップスクリプトは、このセクションで後述する手順で Windows Server 2008 (SP2 または R2) インストールイメージにマッピングされます。セットアップスクリプトをインストールイメージにマッピングすると、Windows Server 2008 (SP2 または R2) のネットワークインストール中に指定したデバイスドライバがインストールされます。

---

- 1 **Windows Server 2008 (SP2 または R2) DVD メディアを、Windows 展開サービスをホスティングしているシステムの DVD リーダーに挿入します。**
- 2 すべての **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** カタログファイルを、デバイスドライバリポジトリの **Catalogs** フォルダにコピーします。

例:

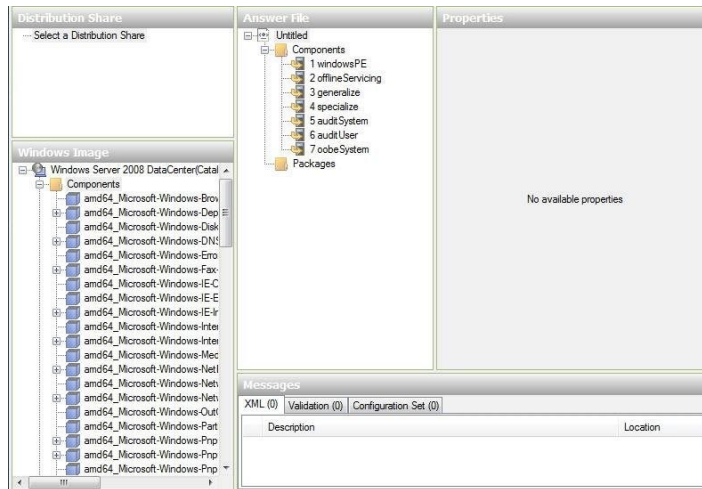
```
copy DVDDrive:\source\*.clg C:\Unattend\Drivers\{WSK8|W28R2}\Catalogs
```

- 3 **Windows システムマネージャアプリケーションを起動し、次の手順を実行して新しい ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを作成します。**
  - a. 「スタート」 -> 「すべてのプログラム」 -> 「**Microsoft Windows AIK**」 -> 「**Windows システムイメージマネージャ**」の順にクリックします。
  - b. 「応答ファイル」ペインで右クリックして、「新しい応答ファイル」を選択します。
  - c. 新しい **Windows** イメージをすぐに開くかをたずねるメッセージダイアログが表示された場合、「いいえ」をクリックします。
- 4 次の手順を実行して、インストールしている **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** 版 (**Standard**、**Datacenter**、または **Enterprise**) と一致する **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** カタログファイルを指定します。
  - a. 「**Windows イメージ**」ペインで右クリックして、「**Windows イメージの選択**」を選択します。
  - b. 「ファイルタイプ」リストボックスで「カタログ」ファイル (\*.clg) を選択し、次に「参照」をクリックして、デバイスドライバリポジトリの **Catalogs** フォルダを指定します。

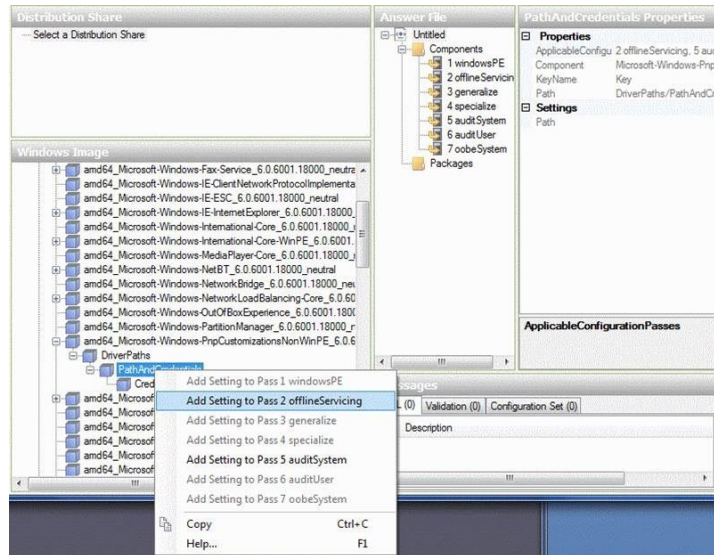
インストールしている Windows Server 2008 (SP2 または R2) 版と一致するカタログファイルを必ず選択してください。

たとえば、Windows Server 2008 SP2 Datacenter の場合は、次のように選択します。

```
C:\Unattend\Drivers\{W2K8|W2K8R2}\Catalogs\  
install_Windows_Server_2008_SERVERDATACENTER.clg
```



- 5 次の手順を実行して、コンポーネントパッケージを「2 offlineServicing に渡す」に設定します。
  - a. 「Windows イメージ」ペインで、「architecture Microsoft-Windows-PnPCustomizationNonWinPE\_version」をクリックして展開します。
  - b. 「PathAndCredentials」を右クリックして、「2 Offline Servicing に渡す設定の追加」を選択します。



- 6 Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール中にインストールするデバイスドライバごとに手順 5 を繰り返します。

install.wim ファイルに含めるデバイスドライバの一覧は、表 D-2 を参照してください。

- 7 次の手順を実行して、インストールキー値を指定します。

- a. 「応答ファイル」ペインで、「2 offlineServicing,architecture\_Microsoft-Windows-PnPCustomizationsNonWinPE\_version」をクリックして展開します。
- b. 「PathAndCredentials」をクリックして展開し、シーケンスキー値とリポジトリの UNC デバイスドライバのパスを入力します。

たとえば、Sun Storage PCIe SAS RAID HBA オプション用のデバイスドライバを追加するには、次のように入力します。

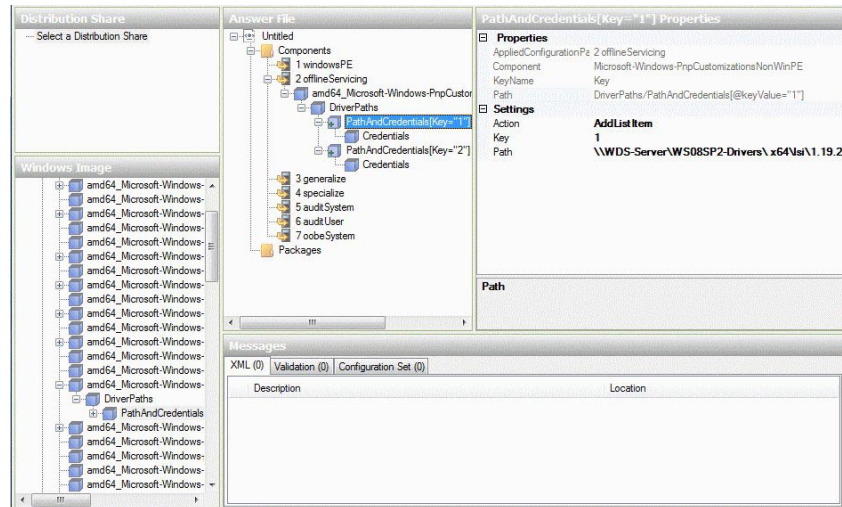
Key 1

Path \\wds-server\W2K8-Drivers\Lsi\1.19.2.64

- c. 各 PathAndCredentials コンポーネントの「Credential」セクションで、コンポーネントをクリックして展開し、UNC ドメイン、ログオン、およびパスワード(必要な場合)を挿入することにより、リポジトリに保存されているデバイスドライバにアクセスできます。

例:

ドメイン	UNC_domain
パスワード	UNC_password
ユーザー名	UNC_username



d. Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール中にインストールするデバイスドライバごとに手順 7a から 7c までは繰り返します。

8 Windows システムイメージマネージャアプリケーションを使用して、ImageUnattend.xml ファイルを検証します。

- Windows システムイメージマネージャアプリケーションで、「ツール」メニューをクリックして「応答ファイルの検証」を選択します。

警告またはエラーがないことを示すメッセージが「メッセージ」ペインに表示されます。

9 Windows システムイメージマネージャアプリケーションを使用して、.xml セットアップスクリプトを ImageUnattend.xml として保存します。

- a. Windows システムイメージマネージャアプリケーションで、「ファイル」メニューをクリックして「名前を付けて応答ファイルを保存」を選択します。

- b. .xml セットアップスクリプトを次の名前でデバイスドライバリポジトリに保存します。

c:\Unattend\Drivers\W2K8\Catalogs\ImageUnattend.xml

- c. Windows システムイメージマネージャーアプリケーションを終了します。

- 10 ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成が完了しました。次のいずれかの手順に進みます。

- Windows Server 2008 R2 インストールの場合、82 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールイメージにマッピングする」に進みます。
- Windows Server 2008 SP2 インストールの場合、79 ページの「デバイスドライバのブート WIM への追加 - Windows Server 2008 SP2 のみ」に進んでから、ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを install.wim イメージにマッピングします。

## ▼ デバイスドライバのブート WIM への追加 - Windows Server 2008 SP2 のみ

注 - Windows Server 2008 R2 インストールを実行する場合は、この手順をスキップします。Windows Server 2008 R2 インストールの場合、ブート時にデバイスドライバは必要ありません。

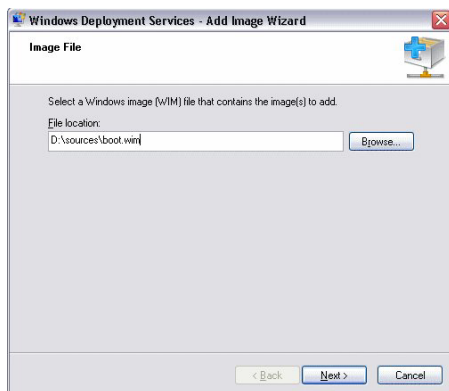
Windows Server 2008 SP2 インストールの場合のみ、次の手順を実行して、適切な PCIe SAS HBA LSI デバイスドライバ (MegaRAID または MPT2) を boot.wim イメージに追加します。必須の PCIe SAS HBA デバイスドライバ (表 D-1 および表 D-2 を参照) が boot.wim イメージに追加されていない場合、Windows Server 2008 SP2 のインストールは失敗します。

- 1 Windows Server 2008 SP2 DVD メディアを、Windows 展開サービスをホスティングしているシステムの DVD リーダーに挿入します。
- 2 次の手順を実行して、Windows 展開サービス管理ツールを起動し、Windows Server 2008 SP2 のブート WIM をインポートします。
  - a. 「スタート」->「すべてのプログラム」->「Windows 展開サービス」の順にクリックします。

- b. 「ブートイメージ」を右クリックして「ブートイメージの追加」を選択し、次に「参照」をクリックして **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM ファイルを指定します。

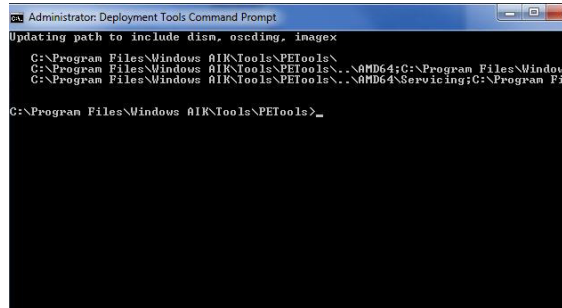
例: DVDDrive:\sources\boot.wim

- c. 「開く」をクリックしてから、「次へ」をクリックします。



- 3 **Windows Server 2008 SP2** のブートイメージをインポートするには、「次へ」を 2 回クリックしてから、「完了」をクリックします。
- 4 **Windows** 展開サービス管理を使用して、**Windows Server 2008 SP2** のブート WIM を無効にします。
- 「ブートイメージ」をクリックして展開し、「**Microsoft Windows Server (セットアップ) x64**」を右クリックして、「無効にする」を選択します。
- 5 展開ツールコマンドプロンプトを管理者として起動し、実行します。
- 例:
- 「スタート」->「すべてのプログラム」->「**Microsoft Windows AIK**」の順にクリックしてから、「展開ツールコマンドプロンプト」を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。





6 展開ツールコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- a. **mkdir** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2** のブート WIM イメージをマウントする一時ディレクトリマウントポイントを作成します。

例:

```
mkdir C:\Mnt
```

- b. **cd** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2** のブート WIM を格納しているフォルダに移動します。

例:

```
cd DVDDrive:\RemoteInstall\Boot\x64\images
```

- c. **imagex** コマンドを使用して、読み取り/書き込み権限付きで **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM を一時ディレクトリマウントポイントにマウントします。

例:

```
imagex /mount /wim boot.wim 2 C:\Mnt
```

- d. **cd** コマンドを使用して、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z)** 用の **Windows Server 2008 SP2** デバイスドライバを格納しているデバイスドライバリポジトリに移動します。

たとえば、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z)** 用の LSI デバイスドライバを格納しているディレクトリに移動するには、次のように入力します。

```
cd C:\Unattend\Drivers\W2K8\lsi\1.19.2.64
```

- e. **peimg** コマンドを使用して、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z)** 用の **LSI MegaRAID** デバイスドライバを **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM イメージに追加します。

たとえば、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z)** 用の **LSI MegaRAID** デバイスドライバを追加するには、次のように入力します。

```
peimg /INF=*.inf C:\Mnt\Windows
```

- f. ブート WIM イメージに必要な追加のデバイスドライバ (表 D-2 を参照) ごとに、手順 7d および 7e を繰り返します。

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA オプション (SG-SAS-INT-Z または SG-SAS-EXT-Z)
- Intel ネットワークドライバ

- g. **imagex** コマンドを使用して、変更した **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM イメージをアンマウントおよびコミットします。

例:

```
imagex /unmount/commit C:\Mnt
```

- 7 **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM イメージを有効にするには、次の手順を実行します。

- a. **Windows 展開サービス管理ツール**を起動します。

「スタート」-->「すべてのプログラム」-->「Windows 展開サービス」の順にクリックします。

- b. **Windows 展開サービス (WDS) 管理ツール**で、「ブートイメージ」をクリックして展開します。

- c. 「**Microsoft Windows Server (セットアップ) x64**」を右クリックして、「有効にする」を選択します。

- 8 デバイスドライバを **boot.wim** イメージに含めるための変更が完了しました。展開ツールコマンドプロンプトと **WDS 管理ツール**を終了し、[82 ページ](#)の「**ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** のインストールイメージにマッピングする」に進みます。

## ▼ **ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** のインストールイメージにマッピングする

次の手順に従って、このセクションのこれまでの手順で作成した **ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを、**Windows Server 2008 (SP2 または R2)** の **install.wim** にマッピングします。

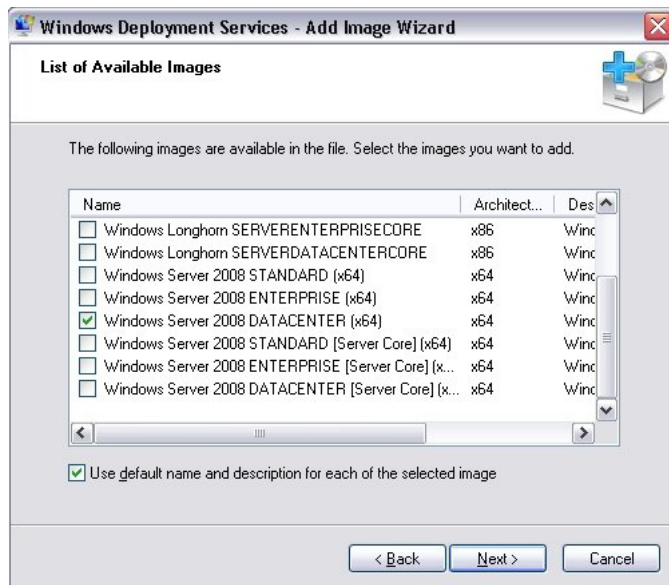
- 1 **Windows Server 2008 SP2 DVD** メディアを、**Windows 展開サービス**をホスティングしているシステムの **DVD リーダー**に挿入します。

- 2 次の手順を実行して、**Windows 展開サービス管理ツール**を起動し、**Windows Server 2008 SP2**のインストール**WIM**をインポートします。
  - a. 「スタート」-->「すべてのプログラム」-->「**Windows 展開サービス**」の順にクリックします。
  - b. 「インストールイメージ」を右クリックして、「インストールイメージの追加」を選択します。  
イメージグループが存在しない場合は、新しいイメージグループを Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 という名前で作成して、「次へ」をクリックします。



- c. 「参照」をクリックして、**DVDDrive:\sources\install.wim**にある**Windows Server 2008 SP2**インストール**WIM**イメージを選択し、「開く」をクリックしてから「次へ」をクリックして進みます。

- d. Windows 展開サービスにインポートする **Windows Server 2008 (SP2 または R2) 版 (Data Center、Standard、または Enterprise)** を選択して、「次へ」をクリックします。



- e. 指定した **Windows Server 2008 (SP2 または R2) 版** のインストールイメージをインポートするには、「次へ」を 2 回クリックしてから、「完了」をクリックします。

3 展開ツールコマンドプロンプトを管理者として起動します。

例:

- 「スタート」->「すべてのプログラム」->「**Microsoft Windows AIK**」の順にクリックしてから、「展開ツールコマンドプロンプト」を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

4 展開ツールコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- a. **cd** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2** のインストール **WIM** イメージを格納しているフォルダに移動します。

たとえば、Windows Server 2008 SP2 Datacenter (x64) 版の WIM イメージは次の場所にあります。

```
cd Drive:\RemoteInstall\images\Windows Server 2008 SP2
```

- b. **mkdir** コマンドを使用して、インポートした **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** **WIM** イメージと完全に同じつづりおよび大文字/小文字でディレクトリを作成します。

```
mkdir install
```

注 - Windows Server 2008 (SP2 または R2) 用のインストールイメージのインポート時にデフォルトを選択すると、install.wim という名前のインストール WIM ファイルが作成されます。

- c. **cd** コマンドを使用して、インポートした **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** のフォルダに移動し、次に **mkdir** コマンドを使用して、**Unattend** ディレクトリを作成します。

例:

```
cd install
```

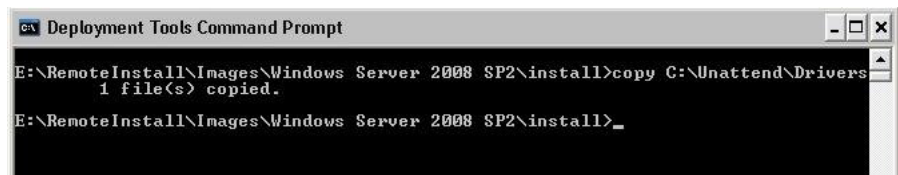
```
mkdir Unattend
```

- d. **cd** コマンドを使用して、**Unattend** ディレクトリに移動し、次に **copy** コマンドを使用して、**ImageUnattend.xml** セットアップスクリプト (この付録のこれまでの手順で作成) を **Unattend** ディレクトリにコピーします。

例:

```
cd Unattend
```

```
copy C:\Unattend\Drivers\{W2K8|W2k8R2}\Catalogs\ImageUnattend.xml
```



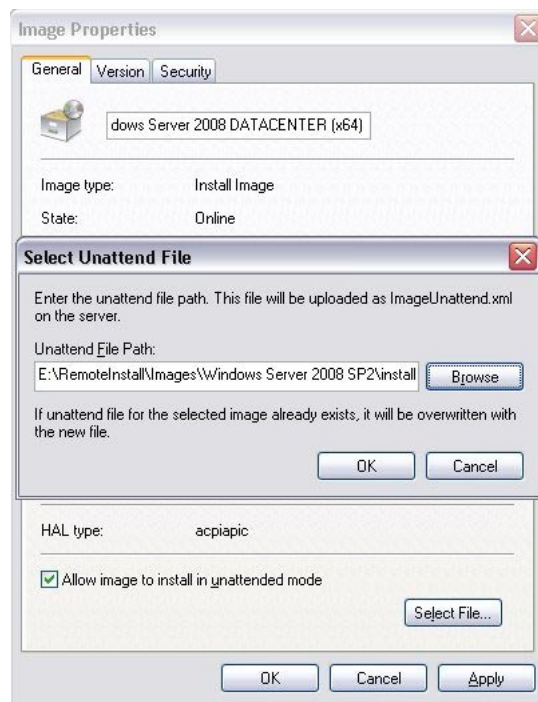
- 5 次の手順を実行して、**Windows Server 2008 (SP2 または R2)** イメージのプロパティを開きます。

- a. **Windows** 展開サービス管理ツールを起動します。

「スタート」 --> 「すべてのプログラム」 --> 「Windows 展開サービス」の順にクリックします。

- b. **Windows** 展開サービス (WDS) 管理ツールで、「**Windows Server 2008 (SP2 または R2)** イメージグループ」をクリックして展開します。

- c. 「**Microsoft Windows Server (SP2 または R2)**」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。
- 6 次の手順を実行して、**ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** イメージにマッピングします。
  - a. **Windows Server 2008 (SP2 または R2)** イメージのプロパティの「全般」タブで、「イメージの無人モードでのインストールを許可する」にチェックマークを付けて、「ファイルの選択」をクリックします。
  - b. 次の場所(手順 4d で指定)を参照して、「**OK**」をクリックします。  
Drive:\RemoteInstall\images\{W2K8|W2K8R2}\install\Unattend\ImageUnattend.xml
  - c. 「**OK**」をクリックして、**ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを **Windows**



**Windows Server 2008 (SP2 または R2) WIM イメージにマッピングします。**

Windows Server 2008 (SP2 または R2) WIM イメージを Windows 展開サービスを使用してインストールする準備ができました。

- d. 展開ツールコマンドプロンプトと **Windows 展開サービス管理ツール**を終了します。

- 7 **Windows Server 2008 (SP2 または R2) を展開するには、次の手順を参照します。**  
37 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストール」。





# 索引

---

## B

### BIOS

- BIOS 設定の表示または編集, 66
- 新しいインストールのデフォルト, 65

## I

- Intel NIC チーミングの構成, インストール後, 43

## L

- Linux OS, RAID ボリュームディスクの要件, 19

## O

### Oracle Hardware Installation Assistant

- 概要, 13-15
- ソフトウェアダウンロード URL, 14
- ドキュメント URL, 15

## T

- Tools and Driver DVD, デバイスドライバの場所, 70
- TPM 構成, インストール後, 42

## W

### Windows Server 2008

- PXE ネットワークインストール, 36
- メディアインストール, 25

### Windows 展開サービス

- WIM ドライバのインストール手順, 74
- WIM ドライバのブート手順, 79
- タスクの概要, 71
- 手順, 74
- ネットワークインストールの概要, 69
- はじめに, 70

## い

### インストール

- PXE ネットワークブートの使用, 36
- ローカルまたはリモートメディアの使用, 24-36

### インストール後のタスク

- Intel NIC チーミングの構成, 43
- TPM の構成, 42
- 概要, 39
- 追加ソフトウェアのインストール, 41
- デバイスドライバのインストール, 39

### インストール先, 60

- インストールブートメディア, 57
- インストール方法, 概要, 55-61

## そ

ソリッドステートドライブ、インストール先として, 60

## つ

追加ソフトウェア,インストール後, 42

## て

デバイスドライバ

Tools and Drivers DVD 上の場所, 70

インストール後, 40

前提条件, 19

ドライバが必要な SAS PCIe HBA, 20

## は

ハードディスクドライブ、インストール先として, 60

## ふ

ブートメディア, 58, 59

## り

リモートコンソール、OS インストールで使用される, 57

## ろ

ローカルコンソール、OS インストールで使用される, 56